

2018年8月26日(日)

主 題：「神のみことばに耳を傾けなさい」

—祝福への道—

テキスト：ヤコブの手紙1章19-21節

はじめに

- ・人が語る「言葉」というものは、聞いているようで聞いていない。逆に聞いてないようで、聞いていることがあります。特に他人の噂話など、自分に興味ある内容は聞いていることが多いのではないのでしょうか。どうしてそういうことが起こるのでしょうか。
- ・ある時、イエスは4つの異なる土壌に蒔かれた種の「たとえ話し」で、次のように言われました。「また、別の種は良い地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」イエスは、**これらのことを話しながら「聞く耳のある者は聞きなさい。」と叫ばれた。」(ルカ8:8)**
- ・つまり、「聞くという意志がある人は聞きなさい」、という意味です。
言葉を聞くという背景には、聞き手の意志が大切であります。
- ・ヤコブは前回のテキスト箇所18節において、「真理のことば」という用語を説明しました。そして今日のテキストで、「ことば」とは何かについて深い解説を行っています。
- ・ところで、ヤコブは「愛する兄弟たち」という呼びかけをしています。ヤコブがこの書簡を書いた目的は、読者の信仰を深めるためでした。これから、信仰があるかどうかを試すものが6つ出てきますが、今日はその最初で「神のみ言葉に耳を傾ける」ということです。つまり、**「神のことばにどう応答するかで、その人の信仰が試されます」。**
- ・19節aで著者はこう言いました。**「あなたがたはそのことを知っているのです。」**すでに知っているので、単に思い出させるだけで良いのです。
そこで今日は次の2点から、私たちは意志を働かせ、みことばに耳を傾けましょう。

大切なポイント

1. みことばに聞く必要

- ・**1:19 愛する兄弟たち。あなたがたはそのことを知っているのです。しかし、だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。**
- ・私たちは試練が与えられると、神はどこにおられるのだろうかとか、どうして私だけがこのような目に会うのだろうかとか、と思うことがあります。そして、(前回学んだように)神は誘惑されるお方ではないことが分かっているにもかかわらず、神によって誘惑されたと、思い違いをしてしまうことがあります。人のせいにしてしまうのです。
- ・ですから、私たちは試練や誘惑について正しく受け止めないと、神を疑うようになってしまいやすいのです。そこで、前回の17節、18節をもう一度読んでみたいと思います。**1:17 すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。**

1:18 父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。

- 私たちが試練や誘惑に会う時に、ふと神を疑ってしまうことがあるかも知れません。しかし神は私たちを全ての造られたものの初穂とするために、ご自身の真理のみことばによって、クリスチャンとして生んでくださいました。
- 「初穂にする」とは、“もっとすばらしく、初々しい存在にする”という意味です。神は私たちを、もっとすばらしく、初々しくするために、召し出してくださいました。本当に感謝です。
- それゆえに、著者は3つの命令を与えています。

1) 「聞くには早く」 Quick to hear!

- 神のことばが朗読される時は、心を開いて、意志を働かせて、意欲的な姿勢で聞かねばならないということです。今とは違い当時は、聖書を個人的に所有している人もいませんでした。また、この手紙が書かれた当時は、新約聖書そのものが存在していませんでした。
- 信者は集会で朗読される神のことばや、口伝の教えに耳を傾けるしか、学ぶ方法はありませんでした。ですから、聞く耳を持って聞かなければ、ことばは通過し心に残りませんでした。
- 今はその必要が当時ほどではありません。今の私たちに当てはめるならば、聖書を読むことではないでしょうか。また、礼拝メッセージを通して神に聞くということでしょう。
- あるいは、私たちが経験するさまざまな出来事を通して、あるいは人を通して、語りかけてくださる神のみ声を聞くということでもあるでしょう。いずれにしても、神に聞くということは、早い方がよいのです。その点で、遅いということは、私たちにとって残念なことです。神のみ声を聞きやすい状態を、生活の中で作り上げてゆくことは大切なことです。

2) 「語るにはおそく」 Slow to speak!

- これは、もちろん話し方のスピードをゆっくりするようにと勧めているわけではありません。今の時代は、何でも、自由に語るができる時代であるため、うっかりすると何でも言いたいことを限りなく言うてしまうことができます。言い換えれば、自己主張し過ぎてしまうのです（結果はあきらかです）。ヤコブはそういうことは、遅い方がよいと言っています。
- 「語ること」は自己主張だと思えます。私たちは、情報の過密な時代に生きています。そして、いろいろな主義主張を聞かされます。そのために、自分一人が遅れてはいけなと思うのでしょうか。どうしても、自分の主張をしたくなります。
- ところが、人間の主張は必ずぶつかり、一つになるはずはありません。ですから自分の主張が早くなれば、どうしても怒りが早くなっていきます。そういうことに、ブレーキをかけて、神に聞くということが一番大事なことを、早くしようと言っているのです。
- ここで言う「語るにおそく」とは、神のことばが朗読される時、敬虔な態度で耳を傾け、その内容を十分に理解し、吸収するように努力すべきであるということです。性急に反

応してはならないのです。内容は、よく理解できないならば、主に祈ることです。そして、自分が理解（吸収）してから、語りなさいということです。

- 今の時代はヤコブの時代より、何十倍、何百倍の重さをもって受け止めなければならぬメッセージではないでしょうか。

3) 怒るにおそく slow to anger!

- そして、もう一つ。怒るには遅いようにしなさい、ということです。
なぜ、ここで怒りということが出てくるか分かりません。しかしヤコブが当時のクリスチャンたちのことを思いながら、これを書いていた時、怒りという問題がその人間関係の中で大きな問題であることに思い至って、こう書いたのではないかと想像します。
- 考えてみてください。外側からは迫害が迫り、内側からは罪に負けてしまい、しまいには信仰から脱落していく人が出るというような現実でした(理解可)。
- 怒りは神のみわざの前進にブレーキをかけます。

1:20 人の怒りは、神の義を実現するものではありません。

- 聖書は怒りについて警告を発しています。なぜなら、人間の怒りは神の義を実現するものではなく、むしろ遠ざけてしまうものだからです。

マタイ福音書5章

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会議に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

- 旧約聖書を見るならば、怒りで失敗した人を見ることができます。
- カインは弟アベルの捧げ物を神が喜ばれたのを見て、怒り失敗しました。カインの怒りは、嫉妬に似たものでした。ねたみはそのまま、怒りにつながっていく感情です。
- モーセは、イスラエルの民が思うように従ってくれないことに、苛立ち、怒りが頭をもたげてきました。神はモーセの怒り、苛立ちをたいへん悲しまれました。
- 預言者ヨナも、神がなさったことが自分の思いとは違っていたために、怒りを覚えました。これは無視された者の怒りでしょう。
- こうした怒りは、私たちにとっても他人事ではありません。「**人の怒りは、神の義を実現するものではありません。**」(1:20)とあります。このように見てきたように、怒りは神の正しさが進んでいくときのブレーキとなります。
- 私たちは、神のおことばに対して、そのような態度をとっているでしょうか。

2. みことばを受け入れる必要

1:21 ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

- 「ですから」とは、前節を受けてのことばです。著者はここでもうひとつ大切なことを語っています。それは「**神のことばを受け入れなさい**」、ということです。しかし、その

前に「**すべての汚れやあふれる悪を捨て去りなさい**」とあります。つまり、神のみことばを受け入れる前に、汚れと悪を捨てることです。「捨てる」とは、「着物を脱ぎ捨てる」ことです。道徳的汚れ、倫理的汚れ、そして悪を脱ぎ捨てなさい、と言います。なぜなら、汚れと悪は神のみことばと相いれないからです。

1) 心に植えつけなさい

- ここでは、みことばが種に例えられています。福音のメッセージを受け入れた人は、みことばの種がその心に植え付けられた人です。すでに種はその人の中で根を張り、成長しつつあります。
- 聖書に親しんでいく時、礼拝のメッセージを心から聴く時、神のみことばは、それこそ苗木が一本一本植えつけられるように、私たちの心に植えつけられていくものです。

2) みことばをすなおに受け入れなさい

- 種が成長し、実を結ばせるためには、みことばをすなおに受け入れる必要があります。土壌がそれを受け入れないと、枯れてしまいます。「すなおに受け入れる」とは、緊急性をもってそれを歓迎し、自分の生き方の中にそれを取り入れることです。
- いかがでしょうか。神がせっかく植えてくださったみことばを、受け入れないならば、あるいはそれに反発してそれを取り除こうとすることはないでしょうか。みことばは、時として自分にとって都合が悪く感じられることがあります。また、それを受け入れることが本当に恥ずかしく、また罪を示されるために抵抗があることもあります。それでも、すなおに受け入れていく必要があります。聞くだけの者であってはいけないのです。
- 「**みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。**」(1:21)とあります。ヤコブは、すでに信仰をもったユダヤ人クリスチャンにこの書簡を書いています。しかし、「**みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。**」と言いました。どんな意味でしょうか。
- 聖書の「救い」には、2つの意味が含まれています。
 - ① イエスを信じ、神によって魂が「救われる」こと
 - ② 将来、完全なものとされる時の「救い」(ルターは祝福とも訳した)ここでは、②の意味で用いられている言葉です。
- すなわち、みことばを受け入れるならば、魂が救われます。それから、全ったき者となるため祝福の旅路を歩むこととなります。つまり、神のみことばが私たちを救い、そして祝福に向かい先導してくださいます。何という幸いではありませんか。みことばに従順である道は、祝福に至る人生です。

ま と め

主 題：「神のみことばに耳を傾けなさい」

—祝福への道—

- ・ 今日、私たちは大切なことを学びました。初代教会時代当時、外からは迫害が迫り、内側からは罪に負けてしまい、そしてしまいには信仰から脱落していく人が出ていました。
- ・ そこで著者は大切なことを語りました。
 1. みことばに聞く必要がある
具体的には、「聞くにははやく」、「語るにはおそく」、「怒るにおそく」ありなさいでした。
 2. みことばを受け入れる必要がある
具体的には、「みことばを心に植えつけなさい」、そして「みことばをすなおに受け入れなさい」です。

* God bless you!